

伝心伝承

当コーナーは「中央海」という大海原での羅針盤たる
助言・苦言をいただくものです。3回目は第21期会長阿
部信行OBです。



—中央会に入会されてプラスになったことを教えてください。

人と出会えたことかな。僕は地元人間ではなくてね、28歳の時に取引先のお客さんに誘われて入会したんだ。当時はこんな活動をするとは夢にもおもってなかったよ。でも、同世代の人達や先輩にかわいがられていろいろな人を紹介してもらったね。それまでは仕事絡みの付き合いしかなかったけど、こうしていろいろな人達と酒を飲むような関係になれたことがプラスになったことだね。

—中央会を楽しく過ごす方法があれば教えてください。

自分から進んで参加すること、進んで人と交わることかな。それも同じ友達ばかりではなくね。だから、酒が飲める飲めないは別にして二次会には出た方がいいよ。先輩は後輩に声をかけてやり、新しく入った人はかわいくついて行く。自己研鑽にもなるし本音の話もできる。人と本音で話ができないと面白くないとおもうよ。

—阿部OBが会長の時に掲げられたスローガンとその意味を教えてください。

「モア アクティブ」もっと積極的に活動しましょうということだったね。会社が会費を払ってくれているので、何らかの成果を持って帰ろうと書いていたよ。そのためには何度も言うようだけ進んで参加することだね。

—中央会のボランティア活動についてどのようにお考えでしょうか？

いろいろなボランティアがあるんだけど、中央会がするのなら「中央会に似合ったボランティア」をするべきではないかな？
例えば、トリアスロンボランティア部への人の派遣は、他のボランティア団体を束ねるNGO的なことだからね。中央会では事故があった時に責任がとれない。主催者が行うことじゃないかな。でも、競技に対するボランティアはいいとおもうよ。

—現役会員の時に何か心がけていたことはありましたか？

役員になった時だったんだけど中央会がプライドになっていたね。会長になった時は「僕は皆のプライドなんだ」とおもうようにしていたよ。そうでないと皆に失礼だし、活動する時はいつも心がけていたね。

—最後に現役会員へメッセージをお願いします。

経済団体への話とは違うんだけど「これからの世代をつくる」ということも含めて子供の教育に取り組んでもらいたい。最近、家族でなければならぬ教育ができていないことが多い。キレない子供をつくるためにも、会員の皆さんの家庭でぜひ取り組みをしていただきたい。

(広報：平田和久)

言わしてごしない

其の参

去る9月14日(日)、台風一過の気持ちよい天候のなか某中学校の体育祭が行われた。

行進、ストレッチ体操、そして本番へとプログラムは移っていった。各学年、クラス対抗で競技は淡々と進められていった。次の瞬間、なんだか分からないが自分が経験した今までの体育祭のそれとは明らかに違う雰囲気を感じ始めた。もう一度、個々に注意深く眼をやると、自分なりに解釈出来た。それは、(主催者側には大変申し訳ないが)グラウンドを最初から右往左往する先生方の段取りのまずさと生徒たちと先生のコミュニケーション不足、それに加えて生徒本人の元気のなさであった。これってやっぱりどこか変？

極めつけは、私らの頃には午前中の花形であった100メートル競争がなかったのである。そもそも、体育祭と言えば自分が経験してきたものや今まで観てきたものはもっともっと活気があって楽しく、参加者の弾けんばかりのパワーを感じ、ビデオを撮っていてもおもしろい感じになっていったものだ。なのに今回はどうして？時代背景なのか、個人競技で順位をつけるのが不平等だということなのか、怪我をするから棒倒し・騎馬戦は廃止なのか、簡素化イコールゆとり教育ということなのか。どこか違う気がしてならない。

子供たちにとっては学生生活のほんの一瞬の出来事かもしれない。しかし、彼らが成人し、大人になったとき決して無気力・無関心・無感動な人間であってほしくない。

「今一度、一所懸命!!!」そう切に願わずにはいられない。

(広報：石指 智)

10月役員会報告

10月定例役員会が平成15年10月1日(水)、米子食品会館に於て開催されました。当日の主な議題は、次の通りです。

- (1) 10、11月例会開催の件
- (2) 青経連親睦会の件
- (3) その他

※なお、詳細については委員長までご参照ください。

コピーをして名簿にお貼り下さい



河津 慎二 A型
東京印刷株式会社 営業部主任
総務部、プロデュース事業、デザイン企画、テレビ・ラジオ広告
〒683-0853 米子市高3柳929
TEL 29-2311 FAX 48-0003

H15.9人会 (推薦者) 杉浦(光) 杉浦(昭) 自宅 米子市三本松3-15-11
〒683-0842 S 45.4.3 TEL 22-6768

(コメント)

9月より入会させていただくことになりました東京印刷の河津慎二と申します。1日も早く交流を深め、私の顔と名前を早く覚えてもらえるように努力します。また、皆様方のパワーを吸収し勉強して少しでも中央会の力になればとおもっています。入会したからには頑張ります。ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

吾輩は導師である

休日には、バスフィッシングに出かけることがある。バスとは最近何かとよく聞くようになったブラックバスのことだ。主な釣り場はダム湖で、日々の生活に無い自然を満喫することができる。よく人に「ブラックバスを食べたことがあるか?」とか「なぜ食べない魚を釣るのか?」と聞かれることがある。魚を食べることも良いのだが、釣りの最大の楽しみとは「自分の思い通りの展開で大きな魚を釣ること」だとおもっている。

では何故バスなのか…。答えは、「自分の知っている釣りの中で最もゲーム性が高いから」である。簡単に言えば、魚を探していく釣りゲームなのだ。魚のサイズによってポイントが違い、1匹の釣れた魚を情報にして大きい魚を探していく。さらに、大きい魚ほど警戒心が強く、状況に合わせたルアーの選択と動かし方が重要となる釣りなのだ。

釣りに出かける前日の夜、寝床の中で最近の天候を振り返りながらポイントとルアーを予測しながら眠りにつく。子供の時と変わらない興奮を与えてくれることが少なくなった今だから、バスフィッシングを大切に続けていきたいとおもう。(平)

10月例会案内

と き：平成15年10月16日(木) 18:30~
と ころ：ホテルサンルート米子
講 師：童話作家 玉井 詞 (たまい・つかさ) 氏
演 題：「夢の途中」

伝心伝承

支所長	主 査	合 議	区 分
自立	3本の柱	会の自立・人としての自立・地方の自立	2003.10 No.189

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 浜田一哉 編集責任者 野嶋 功 印刷所 東京印刷㈱

9月例会開催 周年事業へカウントダウン開始!

9月17日(水)、米子コンベンションセンターにおいて「周年事業の伝心伝承」をテーマに例会が開催された。

冒頭、浜田会長より「来年は30周年という0のつく大きな周年の年です。在籍しているのであればひとりでも多くの人に積極的に参加して欲しい。」との力強い挨拶があった。次いで、新入会員の河津慎二氏のバッチ授与式が行われた。山根政治行政委員長の委員長タイムでは「大人のモラル・子供のモラルが無くなってきているのではないかと自分達は子供の見本になるべき努力が必要なのではないか?」との話があった。



第一部では「20周年と25周年のVTR上映」が行われた。20周年記念式典の際の軍事評論家江畑謙介氏による講演会の一部や25周年の分科会活動の視聴を通じ、歴代会長が各スローガンの下でどのような活動を行ってきたのかを振り返った。

第二部では「周年事業についておおいに語る」と題し、パネラーに畑中・宮廻・堀田の各OBを迎えたパネルディスカッションが行われた。コーディネーターは中島副会長が務めた。(以下代表Q&A)



あなたにとって周年事業とは何ですか？

畑中OB：ある程度の入会年数になると、知らず知らずのうちに活動そのものがどこか消化するだけ・こなすだけのものになりがち。周年事業というスパイスが目新しさや新鮮さを呼び起こしてくれた。

堀田OB：普段内向きな活動が外向きに転じ、「自己満足」から他者の評価を気にする絶好の機会となった。

周年事業についてOB・先輩会員から何かアドバイスを受けたか？

宮廻OB：人選かな。ホント人選には気を遣った。指名した人たちの潜在能力には驚かされたが、それは上手くハマったのではなく各々が最後まで役を演じきってくれたおかげだとおもっている。

会としての周年事業を行う意義はなんだとおもわれますか？

堀田OB：幸い境港JCと中央会の両方を経験したから気づくことなのだが、青年中央会にはアイデンティティーがない。設立の経緯や青年部の母体を持たないこと等がその理由に挙げられる。鳥取県の青年中央会にしても「中央会はひとつ」と言われて久しいが、やはり別物だと感じる。だからこそ5年ごとに自らのアイデンティティーを確認することが必要なのではないか？

30周年事業に期待することは何ですか？

畑中OB：周年事業は経費もかかるので、たとえ形に残らなくてもスピリッツは残る30周年事業にして欲しい。

堀田OB：最近会に元気がないと感じているので、皆でおおいに盛り上がり「これから先この会で頑張れるんだ!」という気持ちを持って欲しい。

宮廻OB：周年事業を一緒に経験することによって必ず交流は深まる。昔の泥くさい中央会に触れてみるのも大切なこと。また、周年事業を機にOBとのつながりも持って欲しい。



最後に、中島副会長より「周年事業を成功させるには「全員が参加し、楽しみ、同じ時間を共有し、達成感を味わう」ことが不可欠。周年事業を通じて中央会としてのアイデンティティーの再確認をし、独自の路線を進まなければ、西部の経済団体の中で活躍するのは難しいのではないかと」の締め括りの言葉があった。

私は先月入会したばかりで周年事業がどのようなものなのか全く理解できていなかったが、今月の例会に参加し、今までの周年事業時における先輩・OBの方々の苦労に多少なりとも触れることができた。ただし、(興味はなかったが)私に限らず周年事業を知らなかった方は多いはずだし、そもそも、経済団体という位置づけのためか一般の方は周年事業があることさえ知らないのではなからうか?しかし、会社経営者あるいは役員の方だけがわかっていけばいいというものなのだろうか?そういう姿勢で他の人の協力が得られるのだろうか?「周年事業はお祭りのようなもの。皆で楽しもう!」というコンセプトがあれば、会員だけに留まらず一般の人に発信できるような事業になるよう努力することも大切ではなからうか?現役会員の約6割が周年事業初体験という状況の中、皆で協力し合わなければ成功は難しいことであろう。そのためには、お互いに声を掛け合っ

て気持ちの温度差をうめていくことが必要であろう。私自身、来年の30周年という節目の事業に「何をすべきなのか、どう取り組むべきなのか」がわかってきたようにおもう。

来年は参加者全員で達成感を感じ、おいしいビールを飲みましょう!

(広報：岡本重雄)

未来

Humane Do everything that is humanly possible

2013.10

No.299

Hands & Time

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 一休謙太郎 編集責任者 平成15年度広報委員会 印刷所 東京印刷株式会社



10年後の将来はいかに

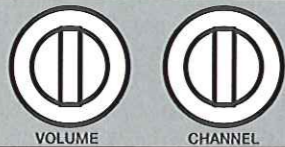
中小企業を取り巻く環境・経済状況は大変厳しさを増す昨今であります。全国で95パーセントを占める中小企業が今こそ団結をより一層強し、生き残りをかけて努力しなければならない時代であるとおもいます。例えば、大企業は会社更生法とか公的資金導入等で保護されます。しかし、大企業に関連した下請けの中小企業等は全く保護されない時代であります。大企業の従業員も中小企業の従業員も人間として平等であることは当然でありますので、こんな不平等は決して許すことはできないとおもいます。

また、財政面を見てもこれと同じことが当てはまります。地方分権と言われていても大きな財政源は国の力でしっかり握っている訳であります。地方に対する締め付けや合併問題にしても「三位一体」と騒がれ、地方財政の困窮を打破するためには地方議員の削減をせよという訳であります。確かに、地方議員すなわち市町村議員の定数は多い。私自身も実感しています。しかし、地方の財政が借金財政であることは事実であります。多いところでも人口ひとりあたり100万円超位であります。その反面、国の赤字国債は国民ひとりあたり400万円以上に上がっています。今後、地方の財政も悪化傾向をたどり、国民ひとりあたりの負担は増大していくことは間違いありません。それを「三位一体」で処理しようとするのは到底許すことはできません。

そもそも、地方分権を唱えるのであれば国会議員も半数で充分であるとおもいますし、県議員も同様であります。仮に、鳥取県西部が合併できれば市町村議員が現在の233人から195名減の38人になり、年間約2億円の支出が減少する訳であります。合併特例債のみを当てにするのではなく、現在の中小企業同様、地方財政も合併を含めたスリム化を実践しなければならないのは当然であります。

そうは言っても、「国が悪い。政治が悪い。」と責任を転嫁するのではなく、自分自身が何をすべきか、何を選択すべきかを真剣に考えるべきであるとおもいます。中小企業から大企業を変え、中小企業の団結から行政を変え、地方政治ひいては国の政治を変えていく時代であるとおもいます。近い将来、必ずこうした時代をつくりあげねばならないとおもいます。

(第14期卒：中村昌哲)



委員会探訪「ばんそわ〜る！情報メディア」

浜田丸が出港して3ヶ月になるが、最も注目されている委員会のひとつは情報メディア委員会である。実は岩崎委員長、一見普通のおじさんに見えるのだが、思考はデジタルなのである。だが、ついこの前まで一身上の都合により携帯電話を持っていなかったおちゃめな男。ブラボー！

そんな委員会を「潜伏取材せよ！」という特命を受け、9月委員会に潜入した。今月の講師には、企業・行政向けにホームページを作成・運営し数々の賞を受賞している有限会社ジャプロ代表取締役幸形ノブユキ氏を迎え、「実際の誘客に直結するホームページの考え方」というタイトルで行なわれた。幸形氏の話は、ホームページ運営のノウハウが中心ではあったが、その内容は会社運営のヒントになることが多くあった。特に、「モノを売るためには「この会社は信用できる」という信頼感・安心感をどう訴えていくか」ということが重要で、美辞麗句を並べたコピーばかりの会社は信用されない（＝モノは売れない）。言葉ではなく数値化すべき。また、マーケティングも重要。」との話しは、具体例に説得力があり非常に参考になった。

今回はオープン委員会という企画にもかかわらず、参加者が少なく残念であったが、岩崎委員長・井塚副委員長コンビによる委員会運営には、独特の味わいが感じられた。異彩・情報メディア委員会、あなどりがたし！

(経営：植田寿雄)

9月度委員会報告書

情報メディア委員会

平成15年9月5日(金) 於：日本情報ビジネス専門学校 出席者/5名
内容/外部講師講演および実習
講師：幸形ノブユキ氏(有限会社JAPRO代表取締役)
演題：実際の誘客に直結するHPの考え方

経営委員会

平成15年9月12日(金) 於：(株)インサイト 出席者/9名
内容/外部講師講演
講師：夏野慎介OB(NPO法人やまみスポーツクラブ理事他)
演題：NPO法人とビジネスチャンス

1. 鳥取県内におけるインターネットビジネスの現状
鳥取県におけるインターネット利用率は35%と低く、近畿圏で高い(奈良65%、兵庫・滋賀・福井63%、大阪61%等)。これは主にブロードバンド回線が普及していないためだと考えられる。このことから、鳥取県の観光・商工業は近畿圏をターゲットにしている場合が多いため、チャンスであると考えられる。

2. 実際の誘客に直結しているホームページの実例と分析
インターネットビジネスとして成功するHPとは、①自社の特徴を知りその特徴を強調すること(羅列ではなく、ひとつを強烈に強調すること)、②見た目を重視するのではなく具体的に数値を提示すること、等々が重要であるとのことだった。

3. ホームページ運用に関する質疑応答
砂原会員の自社HPは設立後しばらくたつが、HPを通じての顧客確保には繋がっていないとのこと。それに対し、「アンケートによる統計を踏まえ、商売に繋がる要因としてアクセス数・更新間隔の速さ・HP構成の簡素化および充実を図れば。」との現実的な返答をいただいた。

政治行政委員会

平成15年9月8日(月) 於：ホールサムインかいけ 出席者/12名
内容/「教育」問題についての討議

今月のテーマ「教育」については「ゆとり教育が世間一般で取り沙汰される中、教育のあるべき姿とは何か?行政はどう関わっていくべきか?」を話し合った。

主な意見として「最近では学習塾の乱立が目立つが学力向上だけが教育ではないのでは?」「5才までの教育で社会性が身につくため保育園のあり方について見直す必要あり」「子は親を親で育てて親が手本となり教育すべき」「人(学校)任せにしないことが肝要」「学校週休2日に伴う家庭内教育の重要性を再認識すべき」「PTAの異様な立場優位による学校(教職)の萎縮」「体罰はあって然るべき」等々多数あった。

以上、討議の結果を踏まえ、12月委員会までに「教育」チームにてテーマと講師の選定を行う。

国際交流委員会

平成15年9月4日(木) 於：ホールサムインかいけ 出席者/12名
内容/外部講師講演
講師：趙函宏女史(米子市役所自治振興課国際交流委員)
演題：日本と中国での習慣とモラルの違いについて

まず、中国の概要として、国旗・国章・国花・国の動物・国慶節(建国記念日)が紹介された。そして、

衣：民族の数だけ伝統衣装がある。主に有名なのは、俗にチャイナドレスと呼ばれる「旗袍(チーパオ)」だが、もともとは満州族の民族衣装だった。

食：東酸(すっぱい)・西辣(辛い)・北咸(しょっぱい)・南甜(甘い)
共働きが多いため、朝食・昼食は外食が多い。夕食は家族揃って食べるのが一般的。

住：画像により清代の豪商宅・一般的な町の平屋・内陸部農家の横穴式家屋・西藏の集合宿房・伝統的な四合院・当代的なマンション等を紹介。

を中心としたお話があった。

NPOとは特定非営利活動法人のことであり、利益追求型の法人ではない。しかし、人件費等は当然かかれば利益は必要となる。税金面は他の法人と同じで、利益があれば税金を支払う義務を負う。優遇税制については未決。

やまみスポーツクラブの事業としては、①ジョイフット事業部、②レンタルコート事業部、③SC鳥取事業部、④復活公園遊び事業(子供たちの遊び場づくり)、⑤グラウンド施設管理事業(予定)、がある。

やまみスポーツクラブの収入としては、toto(サッカーくじ)の売上の一部・県などからの補助金・寄付金や会費等からなり、自販機設置(SC鳥取のロゴ入り自販機)も利益につながる。

地域ビジョン委員会

平成15年9月11日(木) 於：境港市市民会館 出席者/11名
内容/「道」について、担当例会打ち合わせ

「道」について金居、後藤、市位の3名の発表があった。金居会員は山陰の道路事情、特に鳥取県内の山陰道の現状と今後の計画について詳しく説明した。山陰道は15年後全線開通予定で、米子鳥取間は1時間に短縮される等の発表だった。

後藤会員は、知能を持った道路や車を開発することで地域を活性化させることができるため、人と車が共存できる事故のない新しい車社会の構築が必要であると発表した。

市位会員は、アントニオ猪木が引退試合で詠んだ「道」という詩を引用し日々の営業活動の心構えを発表した。

広報委員会

平成15年9月4日(木) 於：大連 出席者/9名
内容/ハンサム10月号編集等

新規コーナー「未来ハンサム」の講師選定等に時間を費やした。また、外部に当会の活動をしらしめ、問題提起できるようなストック原稿の重要性を確認した。

最後に、東部より提案のあった「バッヂ変更」についてディスカッションを行った。所属年数によってバッヂに対するおもしろいには差があるものの、「皆、中央会が好きであり誇りを持ってバッヂを着用しているので変える必要はまったくない」という意見で一致した。

総務委員会

平成15年9月5日(金) 於：ホールサムインかいけ 出席者/15名
内容/新規加入者用パンフレットについて等

委員会報告の中にあつた「バッヂとロゴの変更について」には、「歴史あるものを変える必要はない」「よき伝統を守る意味でもそのままだがよい」などの意見があり、「T.S.C.の由来や意味などを確認し合い、会自体の内容を高めるほうが大切」との意見が交わされた。新規加入者用パンフレットとしては、「同好会活動を盛り込む」「ボランティア活動の内容を入れる」「写真を増やしてはどうか?」などの意見とともに最終チェックが行われ、それらを考慮したうえ、完成されることになった。9月例会については、30周年記念事業委員会を全面的にバックアップしていくよう話し合われた。

30周年記念事業委員会

平成15年9月4日(木) 於：米子食品会館 出席者/6名
内容/9月担当例会打ち合わせ

8月度の委員会に引き続き、当委員会担当の9月例会について打ち合わせが行われた。最初に当日上映予定のVTRの試写が行われ、その後例会の進行について刻みみのタイムスケジュールが作成され、各々の役割分担が決められた。